

 女性医師の窓

## 石川県立看護大学に赴任して

石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
健康科学講座 今井 美和

石川県立看護大学は2000年に開学、昨年5月に開学十周年記念式典を開催、本年4月石川県立大学とともに石川県公立大学法人の下に入りました。充実した教育によって優秀な看護職者を地域に送り出し、研究に基づいた教育と地域への関わりを築いていくことが求められています。私は縁あって開学当初からこの大学に赴任し、今年で12年目となりました。赴任の3年目に出産、子育てに奮闘しながらいつの間にか開学当初より在職している数少ない教員の一人となりました。看護大学では、教育、研究、大学運営などに係わり、優秀な学生さんを自立した看護職者に育てるために日々奮闘しています。これまでに約700名の学生さんが卒業し、保健・医療・福祉の分野で活躍しています。現在の仕事の内容は次の通りです。

教育に関しては、看護学部の学生さんに病理学、微生物学、免疫学の内容を講義し、大学院の学生さんには「がんの発生メカニズム」を教えています。石川県立看護大学に入学される学生さんは、非常に前向きで、優しく、温かい気持ちをもっている人が多くいます。そのような学生さんに、私の持っている医学の専門知識を教えて、新たな医療従事者が育っていく姿をみるのは大きな喜びです。しかし、私の担当する学部の講義は、大学に入学してまもない学生さんを対象にしており、解剖学・生理学・生化学の基礎知識が十分でないので、教えるのに苦労しています。複雑な病気のしくみをわかりやすく講義するのに頭を悩ませています。

研究に関しては、学部4年生とともに「子宮頸がん検診の受診行動に関わる要因」「女性の冷えの要因」などのテーマを、卒業研究として取り組んでいます。看護大学に赴任する前は、がんの発生メカニズムに関して遺伝子レベルでの研究を実験室内で黙々と行っていました。現在は人と人とのつながり中で行う調査研究が中心であり、最初はとても戸惑いました。しかし、学部の4年生ともなると、明確で具体的な目標をもつようになり、そのような学生さんとともに様々なテーマと一緒に取り組むことが魅力の1つとなってきています。

単科の公立大学であるために、大学運営の仕事がかなりの比重を占めています。現在は広報と教務を担当していますが、最近の学生さんは、親切・丁寧な教育環境が整っているため、とてもうらやましく思います。現在はホームページが大学広報にかかせないものとなっているため、ホームページの仕組みや作成方法などにも結構詳しくなってきました。

私は、金沢に生まれ育ち、地元の大学、大学院に進学、病理学を専攻しそのまま出身大学に勤務していました。長い年月を同じような環境で生活していましたので、河北郡高松町（現在 かほく市）の看護大学に赴任する時は、年甲斐もなくかなり不安で緊張しました。案の定、数多くの「カルチャーショック」を受けましたが、个性的で、自立していて、前向きで、明るく、はつらつとして、きびきびした看護大学の教員の方々と交わって、医学科にはない刺激を受けました。このような環境のなかで私自身日毎に成長しているように思います。自然豊かな高松という地で、若さあふれる学生さんと出会い、これまであまり接する機会のなかった分野の方々とともに仕事をすることができ、今は感謝しています。